

株式会社浅沼組

2020年3月期 第2四半期決算説明会

2019年11月22日



イベント概要

[企業名]	株式会社浅沼組
[イベント種類]	決算説明会
[イベント名]	2020年3月期 第2四半期決算説明会
[決算期]	2019年度 第2四半期
[日程]	2019年11月22日
[ページ数]	22
[時間]	09:00 -09:31 (合計: 31分、登壇: 26分、質疑応答: 5分)
[開催場所]	103-0026 東京都中央区日本橋兜町3-3 兜町平和ビル3階 第3セミナールーム (日本証券アナリスト協会主催)
[会場面積]	145 m ²
[出席人数]	20名
[登壇者]	4名 代表取締役社長執行役員 浅沼 誠 (以下、浅沼) 代表取締役専務執行役員 山腰 守夫 (以下、山腰) 執行役員技術研究所所長 石原 誠一郎 (以下、石原) コーポレート・コミュニケーション部部长 八木 良道 (以下、八木)

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

登壇

司会：それでは定刻となりましたので、ただ今から株式会社浅沼組様の2020年3月期第2四半期決算説明会を開催いたします。

まず最初に同社からお迎えしております、4名様をご紹介します。代表取締役社長執行役員、浅沼誠様。

浅沼：浅沼です。よろしくお願いいたします。

司会：代表取締役専務執行役員、社長室長、山腰守夫様。

山腰：山腰です。よろしくお願いいたします。

司会：執行役員技術研究所所長、石原誠一郎様。

石原：石原でございます。

司会：コーポレート・コミュニケーション部部长、八木良道様。

八木：八木です。よろしくお願いいたします。

司会：本日は代表取締役社長、浅沼様、代表取締役専務、山腰様、このお二方からご説明いただきます。ご説明いただいた後、質疑応答の時間を取らせていただきます。

それでは、どうぞよろしくお願いいたします。

浅沼：ただ今ご紹介いただきました、社長の浅沼でございます。よろしくお願いいたします。

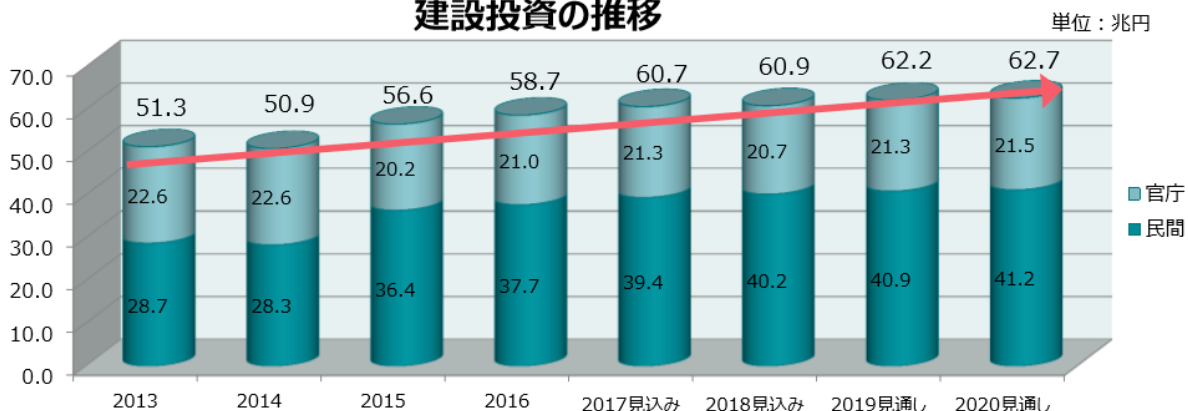
サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

建設業

海外経済の不透明感が一層高まっているものの個人消費の持ち直しや企業収益の改善に伴う設備投資等が増加し民間建設投資は底堅く推移しており、政府建設投資は経済対策及び関連予算の着実な実施が見込まれ、今後も堅調に推移していくことが見込まれています。ただし、貿易摩擦に伴う中国経済の減速による日本企業の設備投資の先送りや抑制など下押し要因には注意が必要です。

建設投資の推移



(一財) 建設経済研究所より

3

資料 3 ページのほうをご覧ください。まず初めに、弊社を取り巻く環境についてご説明いたします。

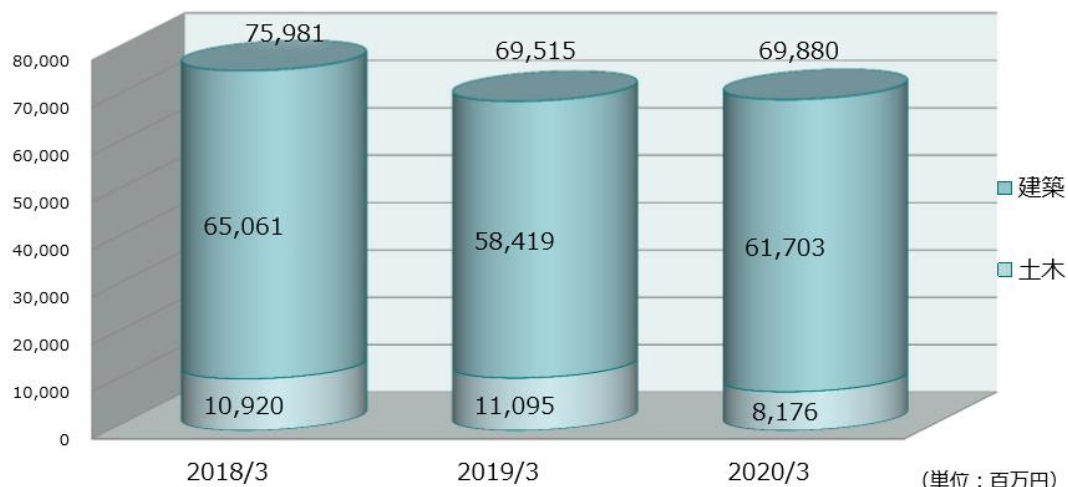
海外経済の不透明感が一層高まっているものの個人消費の持ち直しや企業収益の改善に伴う設備投資等が増加し民間建設投資は底堅く推移しており、政府建設投資は経済対策および関連予算の着実な実施が見込まれ、今後も堅調に推移していくことが見込まれています。

ただし、貿易摩擦に伴う中国経済の減速による日本企業の設備投資の先送りや抑制など下押し要因には注意が必要です。

下のグラフは直近の建設投資の推移です。公共投資は堅調に推移し民間投資の回復により増加傾向であり、2019年度の建設投資については公共投資、民間投資ともに堅調に推移すると見られ、前年比 2.1%増の 62.2 兆円と予測されており、2020年度においても底堅く推移すると見られ、62.7 兆円の見通しとなっております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



	2018/3 第2四半期	2019/3 第2四半期	2020/3 第2四半期	前期比
建築	65,061	58,419	61,703	3,284
土木	10,920	11,095	8,176	△2,919
計	75,981	69,515	69,880	364

5

山腰: それでは5ページを開けていただきまして、まずこの中間の受注についてご説明いたします。下の表をご覧くださいになっていただきまして、右から二つ目がこの中間の実績でございます。

建築、土木、計とありますが、計のところにありますようにこの中間は698億8,000万円でした。まずまずの推移だと思っております。その右に前期比がございますが、前期比の計のところにありますように、3億6,000万円ほど増えたということでもあります。

この通期の計画は、前年度の実績より190億円ほど少ない1,343億円としておりますが、今の足取り、そして今の案件の積上げというところから見まして、通期の計画は十分達成できると思っております。

(単位：億円)

建士	発注者名	工事名称	請負金
建築	北鈴蘭台駅前再開発株式会社	北鈴蘭台駅前地区第一種市街地再開発事業施設建築物新築工事	40.0
	大和リース株式会社	B R A N C H博多パピヨンガーデン新築工事	30.7
	D M G森精機株式会社	伊賀事業所加工工場4期、5期他改修工事	30.5
	独立行政法人都市再生機構	南青山アパート災害公営住宅建設工事	26.5
	大阪スバル株式会社	大阪スバル株式会社 本社・守口店新築工事	19.3
	奈良県奈良市	奈良市本庁舎耐震改修その他工事	19.1 (27.3)
	株式会社サンケイビル	大阪難波ホテル計画新築工事	15.9
土木	名古屋高速道路公社	令和元年度高速1号楠線床版等修繕工事(楠工区)	18.4
	名古屋鉄道株式会社	名古屋本線等 知立駅付近連続立体交差事業に伴う本線土木(その8)工事	9.8
	千葉県八千代市	上高野地区雨水排水整備工事	7.0

() 内JV総額

6

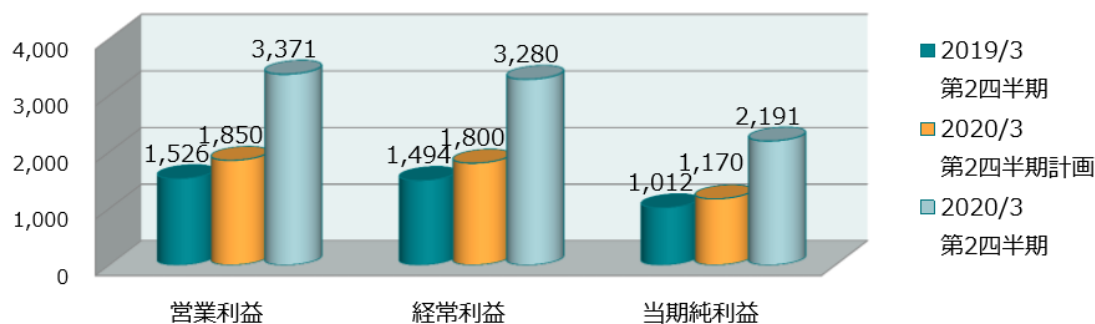
6ページをご覧ください。この中間の主な受注工事の案件を掲載しております。ショッピング施設あるいは分譲マンション、あるいは工場、ホテル等々が受注できたということでもあります。

表にはございませんが弊社の受注に占める大きなウェイトといたしましては、住宅がおおよそ30%、それから工場がおおよそ10%、ホテルが9%、店舗が8%となっております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

2020/3期 第2四半期 連結損益計算書



	2019/3 第2四半期	2020/3 第2四半期計画	2020/3 第2四半期	前期比	計画比
売上高	54,904	57,000	68,665	13,761	11,665
営業利益 (利益率)	1,526 2.8%	1,850 3.2%	3,371 4.9%	1,844 2.1P	1,521 1.7P
経常利益 (利益率)	1,494 2.7%	1,800 3.2%	3,280 4.8%	1,785 2.1P	1,480 1.6P
親会社株主に帰属する 四半期純利益 (利益率)	1,012 1.8%	1,170 2.1%	2,191 3.2%	1,179 1.4P	1,021 1.1P

7

7ページをご覧ください。連結のP/Lでございますが、下の表をご覧ください。下の表の左端が前年の中間の実績。その右のだいたい色で塗っておりますのが、この中間の計画。その右がこの中間の実績です。

前期比・計画比も載せておりますが、前期比のところでお分かりのように増収増益になったことと、計画比のところでお分かりのように計画を達成することができたということでもあります。

特に弊社でいう大型物件の工事の進捗が予定よりも進みまして、それがために完工高が増え、売上高が増えたということもございます。完工高が増えたことに伴いまして利益も増えたということでもあります。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasiasia.com



2020/3期 第2四半期 主な完成工事



(単位：億円)

建士	発注者名	工事名称	進行完成高
建築	大和ハウス工業株式会社 南海不動産株式会社 南海電気鉄道株式会社 オリックス不動産株式会社	滋賀県大津市春日町計画新築工事	21.4
	パナソニック ホームズ株式会社	パークナード代官山新築工事	20.1
	シモハナ物流株式会社	シモハナ物流株式会社岩槻センター新築工事	19.7
	東ソー物流株式会社	東ソー物流株式会社 物流センター新築工事	17.6
	東京都交通局	有明自動車営業所整備建築その他工事	12.3
	株式会社万代	万代新渋川センター新築工事	11.8
	土木	西日本高速道路株式会社	舞鶴若狭自動車道 石原工事
関東地方整備局		H30・31国道51号神宮橋架替鹿嶋側橋梁下部他工事	4.3

主な竣工工事



(彩都の丘学園)



(シモハナ物流 (株) 高槻第2センター)



(阪和自動車道 和歌山南SIC)

8

8ページをご覧ください。完成工事の主な案件を掲載しております。下の写真は今期、この中間に完成した工事の写真を載せておりますが、中間の完成高の主なものは上の表でございます。

この上の表には右端のほうに進行完成高とございますが、この中間の完成高を掲載しております。請負高ベースで申し上げますと大半が我が社でいう大型工事、30億円以上の案件でございます。

先ほど申し上げましたけれど、請負で30億円以上の完成工事高が全体の30%を占めておりますけれども、ここの部分の工事の進捗が進んだことで、完成高、それから利益が前年同期より増収増益、計画を上回ることができたということでございます。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



2020/3期 第2四半期 連結貸借対照表



(単位：百万円)

資産の部		2019/3 期末	2020/3 第2四半期	増減
流動資産		84,924	80,013	△4,911
固定資産		17,075	16,706	△369
	有形固定資産	5,333	5,151	△181
	無形固定資産	886	1,012	126
	投資その他の資産	10,855	10,541	△313
資産合計		102,000	96,719	△5,280
負債の部		2019/3 期末	2020/3 第2四半期	増減
流動負債		51,147	44,280	△6,866
固定負債		13,386	13,924	537
負債合計		64,533	58,204	△6,329
純資産の部		2019/3 期末	2020/3 第2四半期	増減
純資産合計		37,466	38,515	1,048

9

9 ページをご覧ください。連結の貸借対照表でございます。表の真ん中辺りが前年の3 末の数字で、その右がこの中間の9 月末の数字でございます。そして増減を掲載しております。

増減の上から6 行目、資産合計がありますが、この中間は前期末に対して53 億円ほど資産が減ったということでございます。預金が30 億円ほど増えまして、それから売掛債権が80 億円ほど減ったことで53 億円ほど減ったということでありませう。

それから負債のところの増減の上から三つ目、負債合計という欄がありますが、負債は前期末に比べてこの中間は63 億円ほど減ったということでございます。買掛債務が54 億円ほど減りました。それから当然ですが未払法人税が9 億円ほど減ったことで63 億円減ったということでありませう。

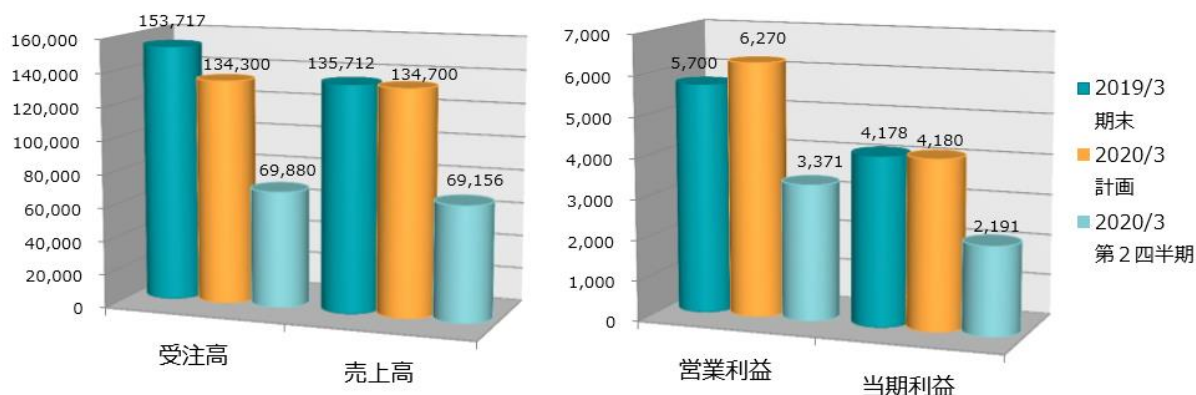
それから純資産の増減のところをご覧くださいと、10 億円ほど増えております。当期利益は22 億円ほどですが、配当で11 億円ほど出してありますので10 億円の増加になったということでございます。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



2020/3期 通期 業績予想



(単位：百万円)

	2019/3 期末	2020/3 計画	2020/3 第2四半期	進捗率
受注高	153,717	134,300	69,880	52.0%
売上高	135,713	134,700	68,665	51.0%
営業利益	5,700	6,270	3,371	53.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,178	4,180	2,191	52.4%

10

10 ページをご覧ください。通期の業績予想でございますが、真ん中辺りのだいたい色で塗っているのが今期の計画であります。その右が中間の実績でございます、その右に進捗率を掲載しております。

ご覧のように受注、売上、営業利益、最終利益とも進捗は50%を超えておりました、中間としてはまずまずの足取りと思っておりますし、今の状況からすると通期の計画達成は十分可能であると思っております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



中期3カ年計画 進捗状況① (数値計画)



(単位：百万円)

	2019/3 中期計画	2019/3 実績	計画比	2020/3 中期計画	2020/3 計画	前期比	中計 計画比
営業利益率	3.8%	4.2%	0.4P	4.6%	4.7%	0.5P	0.1P
投下資本利益率 (ROIC)	7.0%	8.1%	1.1P	8.4%	8.4%	0.3P	—
自己資本利益率 (ROE)	9.0%	11.5%	2.5P	10.6%	10.6%	△0.9P	—
自己資本比率	36.0%	36.6%	0.6P	41.0%	41.0%	4.4P	—
資本コスト (WACC)	5.0%	5.1%	0.1P	5.0%	5.1%	—	0.1P

11

11 ページをご覧ください。中期3カ年計画。今年度が2年目になっておりますが、その数値計画の進捗を掲載しております。

表の左端が中期計画の前期の計画でございまして、その右が前期の実績で、その右に計画比を掲載しておりますが、計画比のところでお分かりのように前期はそれぞれの数値計画を達成することができました。

計画比の右、黄色く塗っているのが今期中期計画における計画でありまして、その右に今期の計画を付けておりますが、右端に中期計画比とありますけれども今期の計画もほぼ中期計画どおりになっております。

先ほど通期の計画達成は十分可能と申し上げましたが、それぞれの率の計画についても十分達成できるだろうと思っております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasiasia.com



建設事業における収益力・競争力のさらなる強化

協力会社との協働による生産性向上

- 協力会社協働による作業所生産性向上策 表彰式・発表会を開催
 広く募集した作業所における生産性の向上策の中から、社員投票及び審査によって選考

社長賞

- ・「梁型枠ユニット化による工期短縮」

優秀賞

- ・「残存支柱工法を活用することで梁底せき板を早期に解体できる理由から梁の型枠工事に岡部のハリホルダーを使ってみた」
- ・「屋上駐車場防水押さえコンクリートのワイヤーメッシュ配筋にかわるバルチップ採用による省人化・省力化」
- ・「トンネル補修工事における3Dスキャナーデータを用いた現状把握」



社長賞の発表の様子

リニューアル強化

- リニューアルブランディング計画

ブランディングにより
 浅沼組のリニューアル事業の差別化、強化、深化を推進



「〇〇といえば浅沼組のリニューアル事業ブランド」
 として市場認知を獲得し、事業機会の創出につなげる

12

それから 12 ページをご覧ください。中期3カ年計画の施策の進捗状況を簡単に掲載しております。

中期3カ年計画の柱を三つ掲げているのですが、その一つである建設事業における収益力・競争力のさらなる強化ということで、冒頭、社長からも申し上げましたが一つは、協力会社との協働による生産性向上と協力会社との連携強化は最優先事項でありまして、いろんな取り組みを行なっています。

それから下の段にはリニューアル強化ということで掲載をしておりますが、リニューアルにつきましては申し上げるまでもないですけども、今後とも安定した建設投資が見込まれます。当然、同業他社とも注力しているということではありますが、我が社としてはリニューアルを建設事業の中で最も注力すべき狙い目としてとらえ、独自のブランドを立ち上げて優位性を確保したいと考えております。

このブランディングにより浅沼組のリニューアル事業の差別化、強化、深化を推進し、リニューアルといえば浅沼といわれるような市場の認知を得られるようにしていきたいと考えております。来年の4月には具体的なものが発表できるよう今プロジェクトを進めているところであります。

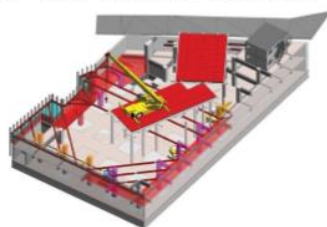
サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

建設事業における収益力・競争力のさらなる強化

ICT活用による生産性向上

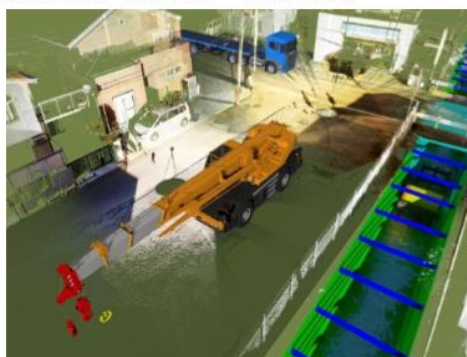
- BIM・CIMをはじめとするICTの試行開始、設計施工案件などへの積極活用



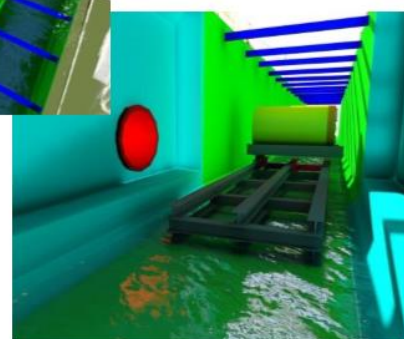
施工計画



3Dスキャナー計測点群データ



VRモデルによる施工シミュレーション



13

13 ページをご覧ください。ここには建設事業における収益力・競争力のさらなる強化の中の ICT 活用による生産性向上ということで、いくつか写真を掲載しております。

左上の写真は仮設計画に BIM を取り入れたものでして、図面だけでは分からなかった問題点などがこれによって見えるようになります。

それから左下の写真はトンネルの補修時に 3D スキャナー計測によるデータ取得を取り入れたものでして、人による計測方法から大いに時間効率が図れます。

それからバーチャルリアリティ技術についても注力しております。様々な施工シミュレーションを行い、事前に問題点の洗い出しや安全管理に有効でありまして、右の二つの写真は千葉県の下水工事における、シールドマシンの撤去時の施工シミュレーションにバーチャルリアリティ技術を使用したものであります。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

新技術・新事業への挑戦

新技術・工法への積極的な取り組み推進

○特殊積層繊維シートの実用化

阪神高速道路㈱・㈱ケー・エフ・シー 共同開発

タイ王国のバンコクに於いて開催されました [メンテナンス&レジリエンス アジア 2019] に出展



このJICAの事業は、SDGsのゴール9に当てはまり、
強靱なインフラ構築、包括的かつ
持続可能な産業化の促進
及びイノベーションの推進に貢献
しています。



14

14 ページをご覧ください。中期3カ年計画の三つの柱の一つ目ですが、新技術・新事業への挑戦ということで今、動いております。その中の一つとしてここに掲載しておりますのは、高速道路等の補修作業の効率化に役立つ特殊な繊維シートが、JICAの公募に採択されまして現在タイでその実用化に向け準備をしておるといことであります。

その準備の一環としてこの10月にタイのバンコクで開かれたのですが、メンテナンス&レジリエンス アジア 2019 にこの繊維シートを出展したその模様の写真でございます。3日間程度の展示会ではありましたがいろんな業種の方からの問合せをいただきまして今後、我が社の商売につなげていきたいと考えております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

持続的成長に資する経営基盤の確立

コーポレート・ガバナンスのさらなる強化

○取締役会の実効性の分析及び評価	・第3者機関にて実施 (2019年)
○社外取締役の増員 (2019年6月より)	・女性の社外取締役を1名増員 (指名・報酬委員会の委員に任命) 取締役総数に占める社外取締役の比率 25.0% → 37.5%
○指名・報酬委員会の適切な運営	・代表取締役の選任解任基準の明確化 ・開催日数の増加 (2018年度 7回、2019年度 6回 10月末現在) ・社外取締役比率 50.0% → 60.0%
○IRの強化	・株主総会における議決権電子行使システム導入 (2019年6月総会より) ・英文の開示情報を充実 ・個人投資家向け説明会開催予定 (2020年2月)

資金投入計画について

協力会社との連携強化を目的とした支払いの現金化

○現金比率向上	・2018年8月支払い分より手形発行金額の下限を5,000万円以上に引き上げ、現金支払い比率を拡大 ・ 2020年1月支払いより全額現金支払いへ
---------	------------------------------------------------------------------------------------

15

15 ページをご覧ください。中期3カ年計画の三つの柱の三つ目でございます。

持続的成長に資する営業基盤の確立の中のコーポレート・ガバナンスのさらなる強化ということで、一つは表にありますように取締役会の実効性の分析及び評価について、従来は取締役会自身が取締役会の実効性を評価しておりましたが、今回は第三者機関による評価を実施しておることとあります。

その次に、社外取締役の増員について、この6月の総会で承認されましたので、女性の社外取締役を1名増やしました。その結果、取締役の中での社外取締役の占める比率が赤字にありますように37.5%、3分の1を超えたということとあります。

その次に、指名・報酬委員会の件であります。社外取締役を1名増やしたことに伴いこの委員会にも入っていただいておりますので、委員会における社外取締役の比率は赤字にありますように過半数になったということとあります。

IRの強化で、赤字にありますように来年の2月には個人投資家様向けの説明会を開催したいと考えております。

その下にあります資金投入計画について、協力会社との連携強化を目的とした支払の現金化であります。現金化比率をさらに向上させることにいたしました。現在の支払における現金比率は90%程度であります。来年の1月からは全て支払を現金化することにいたしました。

何度も申し上げますけれども、協力会社との連携強化は最優先事項でございます。こうした取り組みをしたということとあります。

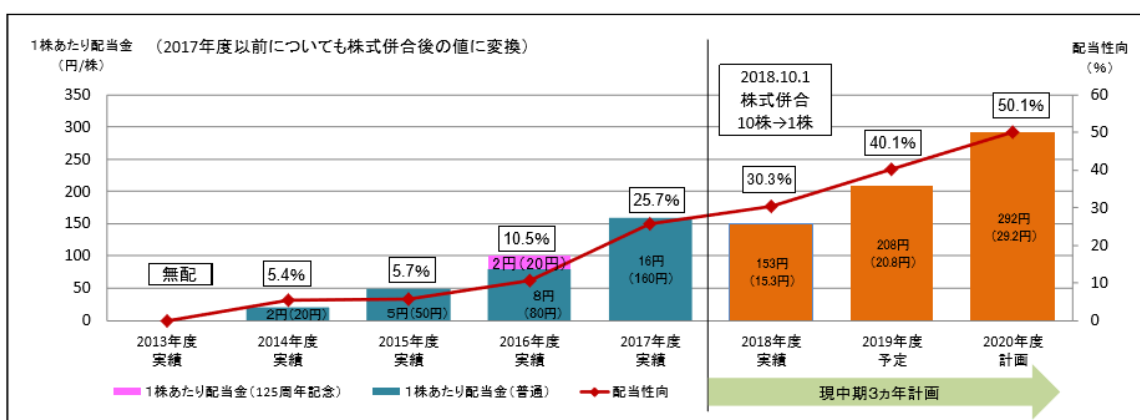
サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

中期3カ年計画の最終年度の計画値としていた【連結配当性向30%以上】を初年度に前倒し、更に最終年度には50%以上を目指す計画に修正。

連結配当性向は原則として以下を目指します。

2018年度計画	2019年度計画	2020年度計画
30%以上	40%以上	50%以上



16

それから16ページをご覧ください。前回のこの説明会でも申し上げましたが、株主還元、配当性向計画について中期3カ年計画の見直しをしたということですが、表にありますように右サイドが見直しをした配当性向でございます。

2018年度は153円の配当で、30%程度の配当性向。今期は208円で、40%程度の配当性向で業績の計画は達成できると申し上げましたが当然この配当も死守したいと思っております。

浅沼組 社会貢献基本方針

私たちは、社会の一員として社会のあるべきかたちの実現のため、社員一人一人が社会的責任を自覚し、積極的に社会貢献活動を推進していきます。

2019年4月以降の協賛団体の活動報告

日本身体障害者野球連盟
全国大会 5/19・20
始球式の様子



日本ブラインドテニス連盟
スペイン国際大会 6/9

大野選手
B1クラス男子の部優勝
大会MVP

ならどっとFM 番組
「岡本彰夫の奈良 奥の奥」
公開収録の様子 4/7



17

続きまして、社会貢献活動について社長よりご説明させていただきます。

浅沼：17 ページをご覧ください。弊社は社会貢献基本方針の下、様々な分野において社会貢献活動を推進しております。

今年度における活動を少しご紹介させていただきます。

障害者スポーツ団体の日本身体障害者野球連盟と日本ブラインドテニス連盟に協賛しております。

身体障害者野球においては5月19日、20日に神戸にて全国大会が、11月2日、3日には兵庫県豊岡にて全国選抜大会が開催され、熱戦が繰り広げられました。掲載は5月の全国大会のもので始球式をさせていただきました。

ブラインドテニスは日本発祥のスポーツで現在、世界各国で行われるようになっております。6月9日にはスペインで世界大会が行われB1クラス、男子の部で大野選手が優勝を飾っております。

次に、ならどっとFMは奈良市の小さな地域限定のFM局です。FM局は災害時における地域コミュニティの構築等、重要な役割を担っております。その中で元春日大社の権宮司である岡本彰夫先生がメインパーソナリティを務める岡本彰夫の奈良、奥の奥という番組の提供を行っております。奈良の歴史、文化の発信の一助、地域防災活動の手助けになればと考えております。

またこの番組は今年度のJCBA 近畿コミュニティ放送賞にて、情報教養部門の優秀賞を受賞されております。掲載は4月7日に奈良の平城宮いざない館で行われました公開収録の様子になります。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

以上、最近の取り組みの一部をご紹介させていただきましたが、今後も社会の一員として様々な活動に取り組みたいと考えております。

以上をもちまして、第2四半期決算説明会を終了いたします。ご清聴、どうもありがとうございました。

サポート

日本	03-4405-3160	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasia.com



質疑応答

司会：ありがとうございます。それでは質疑応答に入らせていただきます。ご質問される方は挙手をお願いいたします。

なお、この IR ミーティングは質疑応答部分も含め、全文を書き起こして公開する予定です。したがって質問される際、会社名、氏名を名乗っていただいた場合は、そのまま公開されます。もし匿名を希望される場合は、氏名は省略していただいても結構です。

それでは、どうぞよろしくをお願いいたします。いかがでしょうか。せっかくの機会でございますので、ご質問ございましたらどなたかどうぞ。

マツハシ：ご説明ありがとうございました。ストラテジックキャピタルのマツハシと申します。

16 ページのところに書いてあった株主還元の方針についてお伺いしたいと思います。2019 年度の計画のところ、40%以上と書いてあるかと思うんですけども、それ以上になる場合とはどのような場合なのかということでもあります。

今の会社計画の 1 株配当の予想、今期は 520 円になっていて、配当性向 40%であれば残りの 6 割については内部留保にすることになるかと思えます。大体 312 円になるかと思うんですけども、仮にあの計画が 1 株利益が 520 円を上回った場合は、その 312 円を控除したものを配当として株主に還元するというのであれば、40%以上になるのかなと思ったんですけども。

この 40%以上の部分について、どのように考えていらっしゃるのか教えてください。

山腰：まず今期は 208 円ということで配当の見通しについては変更はしておりませんが、配当性向 40%でありますので仮に当期利益が計画を上回ることがあればこの 40%で配当が変わることはあります。

それと 40%以上ということですが先ほど少し触れましたけれども、資金投入計画について、この 3 年計画で 3 年間 200 億円を投入しようということで掲げております。その資金投入との絡みと申しますか、資金投入を考えた上で配当については考える必要があると。

当期利益が生む利益も当期利益が生むキャッシュも資金も、その資金投入に使用する必要があると考えておりますので、現在のところでは 208 円、40%ということで配当については考えていると、仮に最終当期利益が計画を上回れば 40%という配当性向に基づいて配当が変わるということであり、ます。

司会：よろしいですか。ありがとうございます。続いてご質問、どうぞ。特にないようでございます。念のため会社様から追加事項ございましたら、いかがですか。よろしいですか。分かりました。

それでは以上をもちまして、本日の説明会は終了いたします。どうもありがとうございました。

[了]

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



脚注

1. 音声不明瞭な箇所に付いては[音声不明瞭]と記載

サポート

日本	03-4405-3160	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptasia.com



免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、弊社は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。さらに、利用者が弊社から直接又は間接に本サービスに関する情報を得た場合であっても、弊社は利用者に対し本規約において規定されている内容を超えて如何なる保証も行うものではありません。

本資料または弊社及びデータソース先の商標、商号は、弊社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用してはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて会員自身の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者自身が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び弊社による本規約に基づく利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して会員が被った損害、損失、費用につき、弊社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、弊社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、弊社によって編集されている可能性があります。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com